



青年海外協力隊 シニアボランティア
2016年度2次隊 卓球隊員 西岡 昌彦

前回のレポートで紹介できなかった話題のうち、日本ではあり得ないことが多々発生した第二回全国大会について、その準備段階から前日そして当日の様子をお伝えします。

全国大会は私の活動の中でも一番大きな行事のため準備段階から相当神経を使いました。前回は2016年11月26日に行われ、今回は1年を待たず2017年7月15日に第二回全国大会が開催されました。

1、準備段階 (大会会場決定まで)

通常大きな大会は年度内の同じ月に開催されますが、今回はなぜ4か月も前倒しになったのかは謎です。気付いた時には7月開催が予定されていました。

大会開催で一番大切なのは開催日の決定と会場の確保です。それが決まらなると大会要項が作成できません。よし悪しは別にしてこれまでトンガの生活で、トンガの方々と我々とは時間の感覚が異なるのはわかっていましたので、私としては何事も早めに提案するよう心掛けました。

今年になって最初の会議でまず開催日の決定と会場の確保を提案しましたが、まだ先でいいと回答されました。3月に入っても動きがなかったため再確認したところ、予定会場の責任者は自分の友達だから大丈夫という会長の答え。相手と面識があれば、より早く会場を確保して次の準備に取りかかるべきと思いますが、このあたりにも我々との時間感覚の違いを感じました。



第二回全国大会会場

どんどん7月が近づいてくるので会長には会場を確保するよう再三提言。ようやく4月に入って動きがありました。やはり予定の会場は確保できず別の会場になりました。しかし当初予定していたのはトンガでも一二を競う大きなホールでしたので

この画像の会場で良かったと思っています。ここに卓球台6台を置いても広すぎたくらいです。

ようやく開催日(当初は7月1日を予定)と会場が決まり一安心しましたが、5月16日の練習後に緊急会議。何かと思ったら7月1日と8日(ともに土曜日)はトンガでラグビーの国際試合があるため卓球の全国大会は7月15日に変更とのことでした。トンガではラグビーが一番人気のあるスポーツなので仕方ないと思いましたが、なぜそんな大イベントがあることをもっと事前に察知できなかったかはまたしても謎です。ただ日程変更しても同じ会場が確保できたので私は胸をなでおろしました。

2、種目とセット数

次に大会種目の打ち合わせがされました。最初は年齢別に12、14、16、18、21歳以下と年齢制限なしの一般男女にて各種目でシングルス、ダブルス、ミックスダブルスと車椅子男女のシングルの合計20種目を7セットマッチで行うとの事でした。いくら参加人数が少ない(結果的に前回と同じ70名程度の参加者)といっても種目が多すぎて管理できないし1試合7セットマッチでは一日で終わらないので9種目に絞り

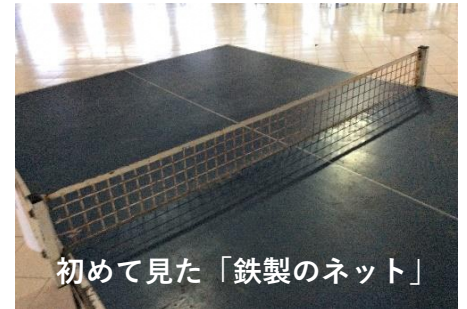


1試合3セット、決勝トーナメント準決勝以降は5セットマッチに変更しました。余談ですが今回も卓球協会としては国際大会にしたかったようですが、オセアニア卓球協会から止められました。現状をこなすのが精一杯なため、的確なアドバイスだと私は思いました。

3、大会前日

前回、大会当日に一部の台を搬入して準備に手間取った教訓から、今回は前日にすべての台(6台)を搬入しました。これは前回よりも進歩した点です。搬入した一台は屋外用で、これには鉄製のネットが付いていました。私は長年卓球をやっていますが初めて見たので大変驚きました。でもこの台は当日使用されることはありませんでした。

台を設置後、大会当日関係者は朝7:00に集合と確認して20:00過ぎに解散しました。



4、大会当日(集合～試合開始)

そして大会当日、7月のトンガは冬なので日の出は7:30、あたりはまだ真っ暗でしかも雨。私はシューズをリュックに詰め、サンダル履きで会場に向かいました。私は7時少し前に会場到着。前回に続き今回も会場一番乗りでした。幸いホールのドアも開いていたので会場内でシューズに履き替えて最終点検したところ雨漏りを2か所発見し、モップで処理。時刻は7:30になっていましたが誰も来ていませんでした。

さらに自分でできる範囲の準備を着々と進めました。やがて8:00、外も明るくなりましたがまだ誰の姿もありませんでした。最初に関係者が到着したのは8:15。特にお詫びの言葉もなく Good Morning で終わり。昨夜の約束は何だったのだろう、。

試合開始予定は9:00でしたがその時間になってもまだ関係者ですら揃っていませんでした。ようやく最初の選手が来場したのは9:30 過ぎ。トンガの方々とは時間感覚が異なるのは承知しており、この状況はある程度予測していましたが日本人の私にとっては大いにストレスがたまりました。

10:00を過ぎても選手はまばら。10:45過ぎ、全員ではないものの選手が揃いやっと開会の挨拶。その挨拶が大変長く、ようやく試合が始まったのは11:00でした。予定より2時間遅れの開始です。

このように集合や試合開始における時間感覚の違いが日本の皆様には不思議に感じられるかもしれませんが。しかしトンガでは普通に起きることです。そうかといってトンガの選手が国際試合に出場した際、試合開始時間に遅れて棄権になっては困るためナショナルチームの選手には時間管理を厳しくしなければならない点がつらいところです。

5、再度シューズについて



これまでに何回か履物についてお伝えしました。今回の大会、男女ダブルスの決勝戦においても裸足の選手が見受けられました。決勝戦でこの状態ですから予選の時点ではもっと多くの選手が裸足でプレーしていました。

このことから、我々が裸足で外を歩くのは無理なように「ビーチサンダルか裸足が普通」のトンガでシューズを常用させるのは想像以上に難しく時間がかかることだとお判りいただけるのではないのでしょうか。



しかしずっとこのままでは進歩がありませんので、次回の大会からは大会要項に「参加者はシューズ履きが好ましい」との一文を入れていただくようトンガ卓球協会に提案してシューズ履きの促進を試みるつもりです。

そして何年か後にはその一文も「参加者はシューズ履きのこと」に変化し、参加者全員があたり前のようにシューズを履いてプレーする環境になることを願っています。

6、大会当日の競技内容変更

試合も始まったので、私はほっとしながら本部席と会場内を行き来し、サーブの出し方に不備がある選手に声をかけたりしていました。そうしているうちにすぐ午後になり、あることに気がきました。どう見ても各試合が終わるのが早すぎるのです。

急いで会長の所に行き確認したところ「全試合3セットマッチから1セットマッチに変更した」とのこと。理由は試合開始時間が遅れたため時間がないからとのことでした。

卓球経験者の方々はご承知と思いますがシングルスはともかく、ダブルスを1セットマッチにしてしまうと一方に有利または不利な状況が発生して不平等なまま終わってしまうので好ましくありません。気付いた時はすでにダブルスの予選リーグも1セットマッチで進行中でしたので、あわててこの内容を説明してどうにか準決勝・決勝は3セットマッチに変更を間に合わせました。

これも日本ではどう考えてもあり得ないことなので驚いたとともに、次回は1セットマッチにせず予定時刻に大会を開始していただくよう会長にお願いしました。

7、大会を終えて

大会は何とか(無理やり?) 17:30に終了。表彰式後に記念撮影が終わった途端、選手たちは一斉にいなくなり、限られた人数で掃除と台の撤去をしました。

もちろん私も最後まで対応して帰宅したのは20:00過ぎでした。

日本では決してあり得ないことをまとめて体感・体験した長い一日でした。



こんな具合にいろいろなことが起きたわけですが、どれしも理由はトンガの方々和我々の「普通という感覚の基準」が異なるためだと思っています。しかしこの状態のままでは「発展」はあり得ませんので、例えばダブルスを1セットマッチにするとどういった不都合が発生するかなど、繰り返し説明して自主的な変化を求めるより方法はありません。

時間も手間もかかりますがそれを行うのが私の使命だと再認識し、任期終了まで手を抜かずにできる限りの努力をするつもりです。

トンガレポートをお読みの皆様からも引き続き応援いただきますようお願いします。